

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」

「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	NPO法人 福島こども保養プロジェクト@練馬 記録グループ
支援対象者・エリア	福島県
企画開催地	東京都練馬区
企画名称	福島のこどもの保養キャンプなど1年の活動報告作成事業
実施期間	2023年4月1日～2024年3月31日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

目的

2011年東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島県をはじめ放射線の高い地域に暮らしている子どもたちに、少しでも線量が低い地域でたっぴりと外遊びをしてもらい、心身のリフレッシュをはかってもらいたいと考えている練馬区民が集まり、任意団体として2011年6月に設立。その後、より継続的な活動をするため、2013年9月にNPO法人化。

今年度の取組み

(保養キャンプ) コロナ禍により2020年、21年は実施できなかったが、22年より規模を縮小して実施している。23年は、コロナがまだ終息というわけではなかったが、昨年の経験を活かしながら、夏の保養キャンプを行う。南相馬市より4家族子ども7名、大人5名が参加した。

事前に参加者・スタッフは直前の抗原検査、また消毒や間隔をとった食事など感染対策を徹底した。プログラムでは、広い庭での虫捕りや川遊び、木工教室、音楽プログラム、花火や竹キャンドルなどを企画実行した。食事については、スタッフを必要とする自炊を減らし、飯能地域の弁当やデリバリー、キッチンカーなどを活用し地域の活性化にもつながった。大平ハウスのある飯能市中郷地区の皆さんには、自治会をはじめ川遊びの河原やスタッフの宿泊所などを気持ちよく貸していただき大変お世話になっている。

(その他の活動)

練馬区にある滞在型保養ハウスが10年を迎え、福島からの利用者が継続していること、練馬区に住む福島県からの避難者につながる場としても利用されている。さらに、2024年1月には震災・原発避難者はいまPART9「東京電力福島第一原発災害を語り継ぐ～福島の声をあなたへ～」の講演会を練馬区で実施した。原発震災を語り継ぐ会主宰で東日本大震災原子力災害伝承館の語り部として活躍されている高村美春さんを講師としてお招きした。原発災害からの避難者で保養活動の主催者である鹿目久美さんにもお話いただいた。会場での参加は40名、Zoom17名の合計57名の参加があった。震災当時を振り返るとともに、今後も保養活動と原発被害者の方の声を伝えていく講演会活動の重要性を再認識し、今後に向けての取り組みを確認した。

(取組みと感想) 昨年の12月にNO6、年が明けて3月にNO7のにゅうすれたーを発行、配布することができた。震災から13年経つが、区内に住む避難者の方と滞在型保養ハウスでの交流を行い、今後につながる一歩となっている。若い世代に伝えていくためにも「保養」の意義をとらえなおし、活動を展開していきたい。

活動の様子（写真など）

2023年8月4日～7日 保養キャンプ（川遊び） 埼玉県飯能市





震災・原発避難者はいま Part 9

東京電力 福島第一原発災害をかたりつぐ～福島の声あなたへ～

2024年1月27日 練馬区民・産業プラザ



※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。